



第32回ふじのくに地域文化活動奨励賞を受賞

浜岡吹奏楽団

Hamaoka Band



PROFILE

通称 浜吹(鈴木直人 代表)。顧問を務める水越直樹さんが昭和53年、池新田高校吹奏楽部の教え子を中心に結成。現在は15歳から70歳まで、47人の団員が所属する。市民会館を拠点に練習を重ね、地域の音楽活動に貢献している。毎年5月に演奏会を開催。



活動認められ奨励賞受賞

毎週水曜日の夜、市民会館のホールに華やかな吹奏楽が響き渡る。指揮者の穏やかな指示が飛ぶ。浜岡吹奏楽団のいつもの練習風景だ。仕事や学校帰りの団員が徐々に集まり、音を重ね、演奏技術に磨きを掛けている。

2月、浜岡吹奏楽団は第32回ふじのくに地域文化活動奨励賞を受賞した。県内各地で優れた文化活動をしている団体を表彰するものだ。

3月13日、柳澤市長を訪問した同団は「受賞は夢にも思わなかったので驚いている。当初の目的であった『地域に還元したい』という思いが報われた」と喜びを報告した。

各地で積極的に演奏活動

5月の演奏会のほか、ファミリーコンサート、市文化祭、地域の夏祭り、イベントでの依頼演奏、幼保こども園や老人ホームでの演奏など、浜吹の活躍の場は広い。「中高生と一緒に演奏をしたり、各地で演奏活動をしたりつながりを大切にしてきた。長年の活動が認められたのだと思う」と

水越直樹常任指揮者は話す。「聴いた人が笑顔で帰ってくるのが何よりもうれしい」と顔をほころばせるのは代表の鈴木さん。創団当時から所属する二人だ。

それぞれに仕事や学業を抱えているため、47人そろって練習することは難しい。集まれる貴重な時間を大切に、細かな表現やサウンドのバランスを確認する。熱い思いゆえ意見がぶつかることもある。それを乗り越えるからこそ、5月の演奏会は「聴いて、観て楽しいステージ」と胸を張って言えるのだ。舞台側から見上げる、客席の拍手と笑顔が気持ちいい。

御前崎市の文化の一つに

昨年、創団40周年を迎えた浜吹。「今後も、地域に愛され『御前崎市には浜吹がある』と思ってもらえるようなバンドを目指していきたい」という。食や自然、歴史だけがまちの文化ではない。将来の吹奏楽人口増のため、市の文化発展のため、地域に根差した活動を続ける。コンブリオ(Con Brio // 生き生きと)で奏でる姿を、今後も応援し続けたい。